芭蕉元禄事業　奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年十一月度 入選句（投稿総数二千八百四十八句・小中学投句数二千百五十句）

選者　説田 祐子

特選

太鼓打つ秋の空までひびかせる　大垣市　説田 優斗（小六）

秋には学校でも地域でも文化行事がよく開かれますね。それに向けて作者は太鼓の練習をしているのでしょうか。それとも本番でしょうか。「秋の空までひびかせる」のフレーズで澄んだ秋の空に太鼓の音が響きわたっていく様子が伝わってきます。同時に作者の太鼓に向かう真剣な姿勢も伝わってきます。自分の取り組みの様子をしっかりとらえた力強い俳句です。

さんまやくにおいたどれば母がいる　大垣市　大倉 優舞（小五）

さんまのおいしい季節です。「さんま」と言えば「焼きさんま」を想像し、同時にそのにおいも思い出されますね。そんなさんまのにおいが家の中でしてきたのでしょう。作者はそのにおいのする台所の方へ行くとお母さんがさんまを焼いてみえた。ひょっとしたら作者は最初から「お母さんだろう」と思っていたのではないでしょうか。それを「やっぱり」と書かずに「母がいた」とさらりと結んでいるところにお母さんへの信頼が感じられます。家庭のあたたかさが伝わってくる俳句です。

あきのかぜきこきこきこと一りん車　大垣市　真田 しほ（小三）

作者は秋の風ふく中で、一輪車を楽しんでいるのですね。一輪車ってなかなか難しいですよね。倒れないように両手でバランスをとりながらペダルをこぐ。その時の音が「こきこき」なのですね。少しの油断もできない一輪車にまたがり自分がふみこむペダルの音を聞いている。スリルのあるようでリズミカルなふんい気もあり臨場感のある俳句です。

秀逸

流れ星願いを乗せて空走る　大垣市　髙橋 百子（小五）

うでひらくかかしのぼうしに鳥がのる　大垣市　杉浦 佑真（小五）

通学路ひがん花が道案内　大垣市　小川 莉歩（小六）

どんぐりがおしりふりふりまわったよ　大垣市　桑原 志穂（小二）

おちばさんあながあいてるどうしたの　大垣市　箕浦 宏考（小四）

猫じゃらし風と友達ゆるりゆら　大垣市　髙橋 美有（小六）

弟と秋の夕ぐれ帰り道　大垣市　井垣 佳織（小六）

くりごはん家族で茶わんをくらべっこ　大垣市　糀矢 みう（小三）

紅葉とねコイもいっしょに舟下り　大垣市　前田 瑠唯（小五）

くりごはんくりのかずだけえがおだね　大垣市　藤井 港司（小五）

入選

風にのり落ち葉が横に走ってく　大垣市　瀬名波　心理（小六）

かまきりをつかまえようとにらめっこ　大垣市　まぶち　しんや（小一）

秋の空メタセコイヤがとどきそう　大垣市　小林　知星（小四）

こおろぎをおいかけまわすおにごっこ　大垣市　桑原　佑奈（小三）

ススキがね風のゆくえを教えるよ　大垣市　中村　優歩（小六）

コスモスが毎日ゆれる通学路　大垣市　藤原　綾音（小六）

いちりんしゃたちのりするとあかとんぼ　大垣市　なわ　みゆう（小一）

発表会力出し切り秋の空　大垣市　川添　遥加（小六）

ざくろ割れ赤い宝石あふれてる　大垣市　松崎　望来（小五）

ぼくたちも真っ赤にそまるもみじがり　大垣市　吉田　ひびき（小五）

入選

月をみてかなしむかぐや姫に会う　大垣市　大橋　若奈（小五）

きんもくせいにおいもいっしょ通学路　大垣市　小林　結（小六）

ただいまと今日もさんまの夕ご飯　大垣市　廣瀬　瑠菜（小六）

妹の稲かる顔見て大笑い　大垣市　渡邊　もえ（小六）

少しずつ大垣のまち紅葉色　大垣市　伊藤　遥菜（小六）

舟下り橋をくぐれば水ひかり　大垣市　澤頭　怜奈（小五）

うすもみじおちていっしょに舟下り　大垣市　石橋　唯斗（小五）

お月さまいくつのえがおを見ているの　大垣市　小林　奈央（小三）

トゲトゲのよろいを着てるくり兵士　大垣市　堀家　菜々子（小四）

さか上り秋空高くけっとばせ　大垣市　三田　柊弥（小五）

選者吟

門先に子ども自転車冬ぬくし　祐子